

No.６８
令和８年３月１日
発行　多治見市教育研究所

URL: http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/
本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でもご覧いただけます。

巻頭言

勇往邁進、新しい年度に向けて

笠原小学校 校長 加知 昌彦

今年の冬は寒波に見舞われ、暑いと称される多治見のまちにも雪が舞う日がありました。登校中に雪玉を作ったり薄氷を見つけたりしながら、それを大切そうに手にもって、校門で自慢げに見せてくれる、そんな季節感を子供たちが味わうことのできる日もありました。四季ではなく、二季ともいわれる昨今ですが、これから暖かさを感じる春に向かって、そして次の年度へと着実に向かっています。

令和7年度もいよいよ終盤となり、次年度を見据える取組が進む中、今年度も学校にとって、そして児童生徒や保護者、地域の方々、私たち教職員にとって、考えさせられる出来事や、喫緊の課題となること、今後の指針や、教育界の未来につながっていくことが話題になりました。時系列でいくつかピックアップしてみると、東京都で男性2人が学校に侵入し、教員が負傷。給特法の改正案を参議院が可決、教職調整額の引き上げなどが決定。小学校の教員が児童を盗撮し、SNS のグループ上で画像を共有したとして逮捕。全国各地での熊出没対策。学習指導要領改訂に向けて中教審が論点整理をまとめるなど、枚挙にいとまがありません。また、いじめ・不登校対策や、多様なニーズを持つ生徒への対応、ICT・デジタル化への対応、学校課題に応じて、向き合うべき内容も様々です。

このように刻々と変化しつつ新たな課題も生まれてくる中で日々、先生方が児童生徒、保護者、地域の方々と共に、そして同僚と共に、児童・生徒の育成、学校づくりに取り組んでいます。

「勇往邁進」は、「目標や目的に向かって、恐れることなく、脇目もふらずに勇ましくまっしぐらに突き進む」ことを意味し、「困難をものともせず、ひたすら前進する強い意志」を表す言葉です。「脇目もふらず」「ひたすら」という言葉には、もしかしたら語弊があるかもしれませんが、日々の学校生活では「働き方改革」の中でも教育活動に飽くなき挑戦を続けていく教職員の力強さを感じます。

ただし、勢いを保ちつつ、目の前に迫る諸課題にも落ち着いて丁寧に、誠実に対応していかなくてはなりません。

中学1年生の国語の教材（光村図書出版）に「ちょっと立ち止まって（桑原茂夫 著）」があります。その文章にこんな一節があります。「遠くから見れば秀麗な富士山も、近づくにつれて、岩石の露出した荒々しい姿に変わる。また、遠くから見ればきれいなビルも、近づいて見ると、ひび割れてすすけた壁面のビルだったりする。」

筆者は続けて、次のように文章を締めくくっています。「物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見方を試して」みる。中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができる。」と。学校や一人一人の教職員がもつ良さ、魅力をどうとらえていくか、一見、うまくいかない諸問題に対してどのように対応していくのか、ということを教えてくれているような気がします。

いつの日からか私の中では「かつての教え子たちが、今の私を見たら、どう思うだろうか？」ということが日々の教育活動に携わる中での一つの指標となっています。

「勇往邁進」と「ちょっと立ち止まって」を掛け合わせ、教育活動にかける思いは変わらないでいたい、という思いをもち続け、年齢や経験を重ねた今でも「先生、あの頃と変わっとらんねえ～。」と言ってもらえるような自分自身でありたいと願い、挑戦を繰り返し、不易流行をとらえる中でのアップデートを続けていきたいと思う現在です。



土曜学習「わがまち 多治見大好き講座」参加してみて考えたよ！

第8期 多治見タイムマシン大作戦③ 100年前 オリベストリート・抹茶体験・修道院の旅（10/25）

Ⅰ．受講生より

1.参加して新しく発見したことは何ですか？



・茶室のドアがあんなに狭いのは、刀を持ちこめないためだということを初めて知った。（小2）

・お茶は日本が作ったのではなく、中国から伝わってきたと知ってびっくりした。僕はお茶ができたのは、永保寺ができたぐらいに始まったと思っていたら、1200年前からだと知ってびっくりした。（小4）

2.50年後の多治見はどうなっている？



・きっと日本の大切な文化として後世にも受け継がれていると思う。だから、50年後は今の小中学生が多治見の大切な陶器や茶の湯の文化を持ち続けている。（中2）

79%の受講者が、多治見に対する願いと自分の行動を結びつけて考えることができた。

第9期 多治見陶磁器探検隊④ ～タイル博士になろう～ （11/15）

Ⅰ．受講生より

1.参加して新しく発見したことは何ですか？



・タイルの材料が砂だということや、タイルを作るのにたくさんの時間がかかっていることがわかった。（小3）

・タイルを作るには３種類あることにびっくりした。（小4）

・タイル工場の見学に行き、はじめてタイルを作るところを見た。出来上がったタイルしか見たことがなかったので、ピストンをしたり焼いたりといろいろなことをしてタイルになるんだとすごく感動した。（小1）

・貼り加工体験で職人さんがとても速い動きをしていてびっくりした。(小4)

Ⅱ.中学生ボランティアに参加して

・多治見は田舎だけどすごい所がたくさんある。そして、そのすごさをもっと広めることができるように、またボランティアに参加して、魅力をより多くの人に知ってもらえるようにする。（中3）

・今回、ロイロノートで送られた資料を見て、中ボラ少ないなと思った。募集人数が 10 人でずっと同じ人なので、次は友達などを誘ってみようかなと、思った。（中1）

Ⅲ 講座後の家庭での学びの深まり

・何回か参加している講座ですが「生」で見ることが身になっているなと感じました。毎回学んだことを教えてくれます。（小4）

・遠足で行った所をもう一度見ることができ、その時見られなかった所も見学できたので満足そうでした。陶器を作る工程と違った内容もあるのもよかったようでした。（小3）

↑こどもの興味を引き出すヒント

57%の受講者が、多治見に対する願いと自分の行動を結びつけて考えることができた。

第10期 多治見タイムマシン大作戦④ ～R7に帰還せよ～ （12/20）

★多治見タイムマシン大作戦の集大成として、ヤマカまなびパーク内を80分間のウォークラリーに挑戦。タイムマシン大作戦①②③の講座で体験した内容から出題されている30問の問題を解き、ゴールできたら多治見タイムマシンの旅は修了です。

1.参加して思ったこと

・わかりやすく説明してくれてありがとうございました。そのおかげでクイズを正解できました。（小3）



・問題でわからないことがあった時ボランティアの人が教えてくれたり、上手に絵が描けた時、優しく褒めてくれたりしたのでうれしかったです。（小6）

・問題やメダルが手作りで、手がこっていたし、ボランティアの人が優しく教えたり、一緒に考えてくれたりして、とてもうれしかった。（小6）

87%の受講者が、多治見に対する願いと自分の行動を結びつけて考えることができた。

第11期 チャレンジスポーツ in 多治見 （1/17）

Ⅱ.中学生ボランティアに参加して

・自分の夢を叶えるためには、努力の積み重ねが必要ということがわかった。私はまだ、将来の夢とか決まっていないけど、とりあえず今は、今回教えていただいた努力の積み重ねを意識して受験に向かおうと思う。（中2）

・未来の自分は、夢に向かって挑戦していると思うので、そのために今、どんなことにも挑戦していきたい。（中1）

・選手たちやサポーターの人たちが教えてくれて、すぐに安心して話すことができるので、とてもしゃべりやすくてよかった。つまり、多治見のよさは、優しい人が多いところで、誇れると思う。（中 1）

66%の受講者が、多治見に対する願いと自分の行動を結びつけて考えることができた。



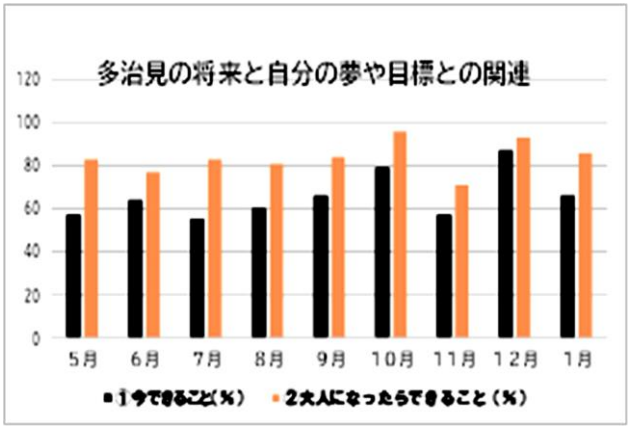
土曜学習「わがまち 多治見大好き講座」 R7 一年間のまとめ

1 土曜学習のねらい

自立的・継続的に多治見に愛着をもち、多治見がよくなることを願い、それを自分の夢や目標の一つとして掲げ、行動できる人材を増やしていくことを目指します。

特に、R7は、将来の夢や目標を講座内容に関連しながらイメージできるように問いかけました。

2 実施直後のアンケートより 成果と課題



①将来の夢のために、今自分にできることを考えた
…６６％

②自分が大人になった時の夢や目標をイメージできた
…８４％

多治見と関連させながら夢や目標をもち、7~8割が自分にできることをイメージしています。さらにどこかで見届け、励ますことができると継続するのではないでしょうか？

そこで、Ｒ８では自立的・継続的に高まるために、精神的自立と社会的自立を目指します。その手立てとして以下を実施します。

A. 精神的自立の手段として、自分の意志で物事を判断し、自分の責任で行動できるように、講座の最初の活動班交流の時に目標を決め、達成するために何をどう頑張るかを考えます。

B. 社会的自立を目指す手段として、人間関係の質の向上を目指し、共感力を高めるため、自分の考えや思いを伝える場を設定します。
また、班活動が活発になるような題材、講座の内容を工夫します。

今年度、様々な場面で、土曜学習にご尽力いただき、ありがとうございました。

来年度も学校での声掛け、広報の継続をお願いします。

令和７年度 連合生徒会交流会

第38回連合生徒会交流会 7月31日(木) 産業文化センター

『令和版 多治見市中学校宣言』の項目「命や多様性を尊重し、自分や家族、仲間、地域の人を大切にします」に関わり、前期の生徒会活動や後期に活動する内容について意見交流をしました。他校の生徒とのグループ交流もあり、積極的に話し合う姿が見られました。午後からは、たじみDMOの小口英二様を講師として招き、多治見の「まちづくり」に関わる研修が行われました。

第39回連合生徒会交流会 1月6日(火) 駅北庁舎

各校の取組発表と中学校宣言「一人一人が自分らしく生活できる居心地のよい集団を目指します」について交流しました。各校の工夫ある活動や様々な意見に、生徒は刺激を受け、自校でも取り入れたいことを考えていました。

各校や多治見市のリーダーとして、これからも創意工夫のある生徒会活動が展開されることを期待しています。会の運営にあたり、各校の生徒会の皆さんや担当の先生方、ありがとうございました。





